

ほんとうのうた

～朗読劇「銀河鉄道の夜」を追って

あの日を忘れないように—

震災後、宮澤賢治の声を手がかりとして、小説家・古川日出男と仲間たちが見つめ続けた世界。彼らの旅を、カメラが追った2年間。

2011年12月24日、朗読劇「銀河鉄道の夜」が誕生した。古川が賢治のヴィジョンを震災後の視点から戯曲化した「銀河鉄道の夜」。詩人・管啓次郎、音楽家・小島ケイタニーラブ、翻訳家・柴田元幸と共に作り上げた声の舞台は、東北をはじめ全国各地をめぐる、土地ごとの変容をとげました。失われた人々への鎮魂と、未来への希望。みえない力に導かれた4人のゲミストリー、どこまでも続く線路の旅に伴走するロード・ドキュメンタリーです。

監督は、2年間に渡り彼らの旅を追った河合宏樹。独自の視点で切り取ったドキュメント映像、出演者のインタビュー、そして、そこに朗読劇の観客の一人である女優・青柳いづみが、彼らの訪れた東北の土地を再訪する「新たな視点」として加わります。ルールに導かれるように乗車し、その土地で賢治を朗読する彼女を通して、銀河鉄道が土地から受け取ったメッセージをみつめます。

日時：10月20日（金）

《17：00～》

上映時間100分（開場16：30）

《19：00～》

管啓次郎氏と河合宏樹監督の対談

場所：明治大学和泉キャンパス

和泉図書館ホール（1階）

講師：河合宏樹氏（映画監督）

【コーディネーター】

岩野卓司（法学部・教養デザイン研究科教授）

【河合宏樹（かわい・ひろき）】

学生時代より自主映画を制作、震災後は、ミュージシャン、パフォーマーなど、表現者に焦点を当て撮影を続け、記録映像に留まらない「映像作品」をアーカイブ。時にはドキュメンタリーとして作品化。制作チームでの名義は「Pool Side Nagaya」。ライブ&イベント撮影をメインに映像制作全般で活動する。2014年、古川日出男、管啓次郎、小島ケイタニーラブ、柴田元幸が震災後、被災地を中心に上演した朗読劇「銀河鉄道の夜」の活動を2年に渡り追った初のドキュメンタリー映画「ほんとうのうた」を発表、渋谷ユークスペースを皮きりに全国各地上映。2016年、七尾旅人が戦死自衛官に扮した初のライブ映像作品「兵士A」を監督、BD/DVDでリリース。全国各地で劇場上映も予定。次回映画作品に向け鋭意制作中。

【管啓次郎（すが・けいじろう）】

詩人、比較文学者、明治大学理工工学部教授。主な著書に、『コロンブスの犬』（河出文庫）、『斜線の旅』（インスクリプト、読売文学賞）、『野生哲学 アメリカ・インディアンに学ぶ』（小池桂一との共著、講談社現代新書）など。サン＝テグジュペリ『星の王子さま』（角川文庫）などの翻訳書も多数。11年、野崎歓とともに『ろくそくの炎がささやく言葉』（勁草書房）を編集、『チェルノブイリ 家族の帰る場所』（朝日出版社）翻訳。最新作は詩集『数と夕方』（左右社）。

予約不要：学部生の受講可

※学外の方も受講可能です。時前にお電話ください。

【教養デザイン研究科 TEL：03-5300-1529】